

Histological spectrum of angiofibroma of soft tissue: histological and genetic analysis of 13 cases

山田, 裕一

<https://hdl.handle.net/2324/1806884>

出版情報：九州大学, 2016, 博士（医学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：やむを得ない事由により本文ファイル非公開（2）

(別紙様式2)

氏名	山田 裕一			
論文名	Histological spectrum of angiofibroma of soft tissue: histological and genetic analysis of 13 cases			
論文調査委員	主査	九州大学	教授	中島 康晴
	副査	九州大学	教授	中村 雅史
	副査	九州大学	教授	岩城 徹

論文審査の結果の要旨

軟部血管線維腫 (AFST) は線維芽細胞性細胞と著明な血管構造に特徴づけられるまれな軟部腫瘍である。AFST は *NCOA2-AHRR* および *AHRR-NCOA2* 融合遺伝子を有することが知られており、AFST の診断に有用であるとされている。形態学的には、AFST は広いスペクトラムを有し、組織像のみからの診断は困難な場合がある。申請者らは AFST 症例の組織学的特徴および遺伝学的側面から診断的裏付けを行い、AFST の組織学的スペクトラムについて解析した。

276 例の孤立性線維性腫瘍、36 例の未分類の線維性腫瘍および近年診断された 8 例の AFST を精査し、AFST に合致する症例を 13 例抽出した。全 13 例に対して免疫染色及び RT-PCR 法、FISH 法による遺伝子解析を施行した。

組織所見としては次のようなものが確認された；アミアントイド線維、赤血球漏出像、ヘモジデリン沈着、泡沫状組織球の集簇、嚢状変性、壊死、出血。免疫染色の結果、腫瘍細胞は EMR に 13 例中 4 例、desmin に 13 例中 6 例、CD163 に 13 例中 13 例、CD68 に 13 例中 7 例、estrogen receptor に 13 例中 13 例、progesterone receptor に 13 例中 3 例、STAT6 に 13 例中 1 例が陽性となった；一方、腫瘍細胞は CD34、 α -平滑筋アクチン、筋特異的アクチン、S-100 タンパク、汎サイトケラチン、MDM2、CDK4 に因性の結果であった。*AHRR-NCOA2* 融合遺伝子は 8 例に検出され、*NCOA2* 遺伝子転座は 9 例に認められた。

以上より、AFST は幅広い組織学的スペクトラムを有し、類似の所見を有する線維性ないし線維組織球性腫瘍において鑑別として重要である。遺伝学的手法により鑑別されるのが望ましい。

以上の結果は、この方面の研究に知見を加えた意義あるものと考えられる。本論文についての試験は、まず論文の研究目的、方法、実験成績などについて説明を求め、各調査委員より専門的な観点から論文内容および関連した事項について種々の質問を行ったが、いずれについても適切な回答を得た。

よって調査委員会合議の結果、試験は合格と決定した。